



園芸作物栽培に関する
これからの対策
と
Q & A

◎タマネギの管理について

この冬は積雪がなかったため、タマネギの「ウ立ち」を心配される方が多いです。

早く植えたタマネギは生育が進み過ぎており、その後の低温で「ウ立ち」しやすい状況になっています。トウ立ちが肥料切れでも促進されるので追肥は必ず行ってください。追肥は、4月中旬が最後のタイミングです。その際の速効性の肥料を3〜4kg/1a施用してください。量が多くなりすぎると、締り悪くなるので注意してください。

◎ジャガイモの管理について

3月下旬から定植していると思いますが、4月上旬には終わるようになっています。注意点は、
・未熟堆肥、ケークンは使用しない。
・肥料は大豆専用化成高度550のりん酸、加里の高い肥料を使う。あまひやそさい3号では窒素が高くなり、葉が過繁茂になりすぎます。
・地温が低い時は、深植えをしない。芽の伸びが止まると土寄せを行う。
・ジャガイモを始め、ナス科植物と連作しないようにする。

◎野菜苗の管理について

・4月中旬くらいまでは遅霜の可能性がありますが、幼苗や生長点は特に寒さに弱いので、苗を室内に取り込む、植えてある作物は、地の厚いもので覆うなどの対策をしてみてください。マルチ資材を使用する場合は、透明マルチやグリーンマルチなどの光を通す素材を使用しましょう。
・高温・多湿を避ける。中にはトンネルをはずし、夕方トンネルをかける。
・かん水は10時頃〜正午までに行う。あまり冷たい水は使わない。
・かん水量は、朝や夕方には少し乾いているくらいの水が適量。かん水

後、育苗箱を持ち上げてみて十分かん水できているか重さで確認する。夕方になっても重いままであれば、かん水量が多すぎている。
・できるだけ日光に当てる。遮光はしない。焼けるのが気になる場合、遮光ではなく、ハウスサイドを開けるなどの換気をしてハウス内の温度を下げる。

◎肥料の種類

肥料は大きく分けて特殊肥料（堆肥や米ぬかなど）と普通肥料に分けられ、普通肥料は無機質肥料、有機質肥料と両者を混合した複合肥料があります。無機質肥料には単肥と化成肥料があり、有機質肥料には植物性畜糞由来も含むもの、動物性のもので両者を混合したもの（配合肥料）があります。良く使われる「複合肥料」とは三要素のうち二種類以上を含んでいる肥料をいいます。それぞれの肥料は窒素(N)、リン酸(P)、加里(K)の三要素のバランスが様々あり、肥効特性とあわせていろいろな野菜に対応できるよう工夫されています。また、含有している三要素の合計が30%以上の肥料を高度化成といいますが、それ以外を低度化成と言います。

肥効特性は①速効性肥料 ②緩効性肥料 ③遅効性肥料に大きく分かれ、肥料は製造上の工夫で①②③のすべてがタイプがあります。なお、遅効性肥料は一括施肥に良く使われる被覆肥料が代表的なものです。
肥料の効き方で「水溶性」「可溶性」「可溶性」という区別があります。水溶性は速効性、可溶性は緩効性、可溶性は遅効性と考えれば結構ですが、これらが混合されている製品もありません。

ハウスで使用する場合は酸性肥料か中性肥料かを考慮する場合があります。酸性肥料を多用すると土壌管理が難しくなっています。



徒長苗



生育の揃っている苗



◎JAで扱っている春作の園芸肥料紹介

現在JAにて取り扱っている代表銘柄の特徴についてまとめてみました。

資材名	N-P-K(%) 窒素-リン酸-加里	特徴	主な用途
園芸有機特A801	8-8-8	有機35%入りで元肥、追肥に使える。	果菜類の元肥、追肥。
あさひ	16-10-12	速効性の硝酸態窒素と長く効く窒素を合わせ持つ肥料。欠乏しやすいほう素が含まれている。	野菜類の元肥に使用。
そさい3号	16-10-14	速効性のある高成分肥料。	野菜類の追肥に使用。生育期間の短い葉菜類では元肥として使用できる。
固形30号	10-10-10	大豆位の大きさに造粒してあるため肥効は穏やかである。腐食の働きで肥料分の流亡が少ない。	砂質土壌における果菜類の元肥、追肥。イモ類の元肥にも使われる。
有機ブリケット特S90	6-6-5	有機の含量が高いため、低温期の肥効発現が遅い。初期生育を図るため速効性肥料と併用する場合があります。	トマト、ナス、キュウリなど長期穫り果菜類の元肥に向く。
有機アグレット744	7-4-4	有機100%資材でJAS認定資材。肥効発現が遅いので定植7〜10前には施用する。窒素が高いため「ようりん」などと組み合わせが必要。	特裁やJAS認証対応資材。
大豆専用化成550	5-15-20	リン酸、加里が高い肥料。	豆、根菜類の元肥として使用。
天然ボカシ	3-5-3	有機100%資材でJAS認定資材。原料は鶏糞、米糠、魚粉、菌体、海草など。	果菜類の元肥。野菜全般の土作り肥として使用。
尿素	N-46	窒素の単肥であり吸湿性が高く、肥え焼けを起こしやすいので特に温暖期の使用には注意が必要。	野菜全般の追肥。葉面散布も可能。
硫安	N-21	アンモニア窒素の窒素であり速効性がある。硫黄分を含むので使用すると土壌が酸性化しやすい。	追肥に使用する。窒素の単肥であり注意が必要。
苦土重焼燐	P-35	リン酸のほか苦土や微量元素を含む。	畑の土作り肥料として使用。
けい酸加里	K-20	流亡が少ないため加里の利用率が高い。	果菜、根菜類の元肥に適している。
アグリフラッシュ444	14-14-14	水溶性の成分が多い速効性の肥料。成分の割に安価。	葉菜、根菜類の元肥、追肥として使用される。
油カス	5-2-1 大まかな値	肥効発現は遅い。地表に撒くとナメクジやコバエ類が寄ってきやすい。また、分解過程でガスが発生するためマルチ栽培で生育に影響が出る場合がある。	単独では窒素が高いため骨粉などと併用する。果菜類の元肥、追肥に使用する。

お問合せ先



東部ふれあいセンター内
営農生活課 担当：高橋
TEL.0778-51-8004

バックナンバーはJAたんなんホームページ
<http://ja.tannan.com/> 広報誌をご覧ください。